

銀漢亭日録



伊藤伊那男

5月16日(月)

▼7月号用選句終了。山崎祐子、卓田謙さん他「万象」「りい」の方5名。吉田類さん、真澄の粕取焼酎持ってきてくれる。その他途切れなく。何とか…。

17日(火)

▼7月号添削教室書く。店、客少なし。23時に閉める。

18日(水)

▼7月号同人秀句評書く。2時から発行所は湯島句会報の製本。「三水会」9人。発行所は「？」句会まだ名称がない。あと、阪西、岸本、坊城、肖子さん5人来店。

19日(木)

▼7月号彗星集選句評書く。「銀漢句会」のあと20人来店。うさぎ、近恵、広渡敬雄氏。ババ玲奈、入沢、深川知子さん。閉店後8人で餃子屋。

20日(金)

▼発行所は清人さんの「ぶりかま句会」8人。終つて5人来店。犬のバニラ入院。結局歯が駄目になっていて14本抜歯。治療代は9万8千円と！泣く。

21日(土)

▼バラ受け取る。14時発行所にて第2回目の座談会。岐阜から堀江美州さん上京。あとのメンバーは小林雅子、有澤志峯、山下美佐、中島雄さん。司会は武田編集長。終つて「美州歓迎句会」。松山、直、いづみ、透水、行雲駆けつける。「祭」「鵜飼」の題で5句。終つて中華の「三幸園」にて懇親会。帰路渋谷で下車し、行雲、直、志峯、いづみさんと居酒屋で二次会となる。

22日(日)

▼星雲集選句評書く。「銀漢」の俳句他7月号原稿全て書き終える。床屋、日用品買物など。16時から成城の長女・桃子の家。カルパチヨ、鶏のバジル風味焼、鮑酒蒸など。ワイン。22時帰宅。

23日(月)

▼発行所は13時より6月号の発送作業。武田編集長から8

24日(火)

月号の出句稿渡される。「湯島句会」出句94人。店に集ったのは何と55人。外は雨。ニューヨークから、月野ぼなさんが来る。

25日(水)

▼北澤一伯君よりカット沢山届く。ひまわり会館にて「萩句会」あり、15時ごろ、選句に行く。賑やかにやってきた。飯田眞理子さんの誕生日にて、てる代さんがビザ5枚ほど焼く。坪井、透水、肇、多田、いづみさん他集まる。オリックス時代の神村君3人。ただし全体に暇。

26日(木)

▼昨日から風邪気味。寒暖の差が激しくうっかりうたた寝をしたためか。店はまづまの入り。真砂年、志峯さん他。

27日(金)

▼マッサージ機でくつろぐ。先日座談会の草稿チェックなど。

28日(土)

▼「未来図」の真砂年、守屋氏など。「月の匣」水内慶太さんがゲスト。嬉しそう。京都をテーマにした句会だった由。

29日(日)

▼関東梅雨入りと。発行所では「金星句会」。奥では西村麒麟君の肝入りで若手俳人集合。小川颯子、渡辺康治、阪西敦子、村上綱彦、月野ぼな、相子智恵さん…。風邪治さねば…。

▼多摩センターに住む兄の家の恒例の薔薇を見る会。兄嫁が薔薇を育てている。私の予定に合わせて開催してくれる。ただし生憎の雨。桃子、次女の杏一家、亡妻の妹一家と。寿司と天麩羅の屋台を呼び、兄はバーベキュー。家の中から薔薇の

30日(月)

庭を見てビール。夜、戻つて角川添削教室5人分。
▼店「雲の峰」高野清風同人会長上京で「墨水会」グループ5人集合。「御嶽鍛錬句会」の20句事前投句のまとめと発送で多田悦子さん他。大学時代の友人、八田氏。安原敬裕氏他。23時閉店。

31日(火)

▼客少なし。23時に閉めて、てる緒、いづみ、対馬、小石さんと餃子屋。

6月1日(水)

▼5月の店の収支表作成。連休遊んだので営業17日間。厳しい！地デジアンテナ設置の下見に電気屋さんに来てもらう。「運河」同人評4頁分書く。店、閑散。23時に閉めていづみさんと餃子屋。あと地元「ヴィノテーク」に寄り、マスタートとイタリア料理をどう日本流にアレンジするか…などの話について熱中。2時まで。

2日(木)

▼雨。昨日、店のカウンターに置いた義援金の壺を一旦集計。15万円を気仙沼俳句会事務局へ送る。「みちのく海の俳句大会」(数年前、私が講演、昨年、山田真砂年さんが講演で銀漢の仲間多数訪問。泊った気仙沼大島の宿も崩壊という。大島は菊田三平、小野寺清人さんの故郷)復活の一助となれば…。盤水先生の甥、皆川文弘さん(佐藤工業、いわきの幼馴染と3人で来てくれる。志峯さん、武蔵美大時代の仲間3人と。

3日(金)

▼句集の礼状など。久々の晴。咳まだ収まらず。結局医者へ。店、吉田類さん二派。敦子、玲奈さん。直さんがまた女性を連れてくる(俳句志願者)。

4日(土)

▼快晴。11時、明治神宮。杏の次男、颯斗の宮参り。婿殿の両親とも久々。食事は颯斗発熱あり中止。あと高井戸「美しの湯」で半日くつろぐ。三代川次郎さんよりメールあり、6月1日手術無事終了。歩行精励中と。

5日(日)

▼13時、中野サンプラザ「春耕同人句会」。終つてブロードウェイの中の居酒屋にて親睦会。早々帰宅し21時には寝てしまう。

6日(月)

▼5時半起床。岩田諒さん「存在乃家Ⅲ」句集評6枚半を「春耕」へ寄稿。夏の日差し。店、企画部会議5人。2階、勉強会7人。俳句関係以外のお客2人というところでもない日。武田さん三代川さんを見舞い、元気だったと。有史さん、奥志賀高原のクレソン他を持ってきてくれる。

7日(火)

▼体調は戻る。「秋麗」主宰の藤田直子さん高知の植木さんと来店。松山、小川洋、初子さん他。嬌恋村の柴山さんから野蒜沢山届く。

8日(水)

▼雨。8月号の選句など。発行所は「梶の葉句会」、途中から選句に。店、平さん、真砂年さん達の勉強会。今日は「子規」と。中島雄二君、国立劇場の同期7名で親睦会。赤羽良剛さん、青山のフランス料理店「ラ・ブランシュ」のシェフ田代さん他と。編集スタッフ7月号の最終校正で23時過ぎまで、頭が下がる。帰路、ついつい高井戸の博多ラーメンに寄つてしまう。しかも替玉までして…。困ったものです。

9日(木)

▼7月号の最終校正全部目を通す。地デジのアンテナ設置。大西真一さん誕生パーティーで貸切。四十数名参加。津軽三味線の演奏も入り大賑い。

10日(火)

▼久々、レジーが家の掃除に入る。店、カウンターにしかお客のいない日。月野ぼな、谷岡さんほか。ただし①三十代位の男性客が俳句に興味を持ち納涼句会に来るようになったこと②ぼなさんの友人も来ることに③谷岡さんが堀切君を口説き購読会員になったことなど、俳句的成果は絶大。